



ほうさ 第13号

1982年11月

名古屋市蓬左文庫
Nagoyashi Hōsabunko

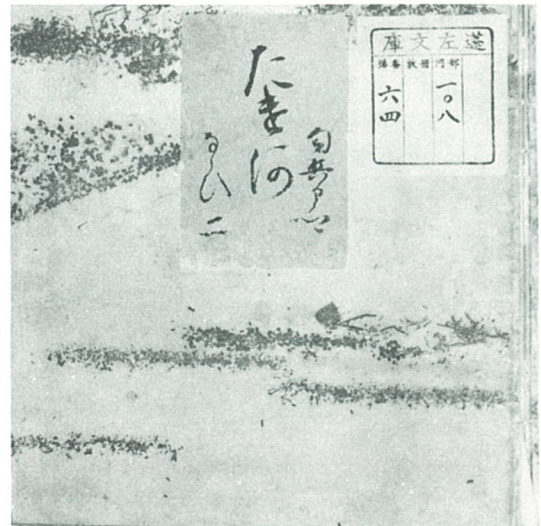
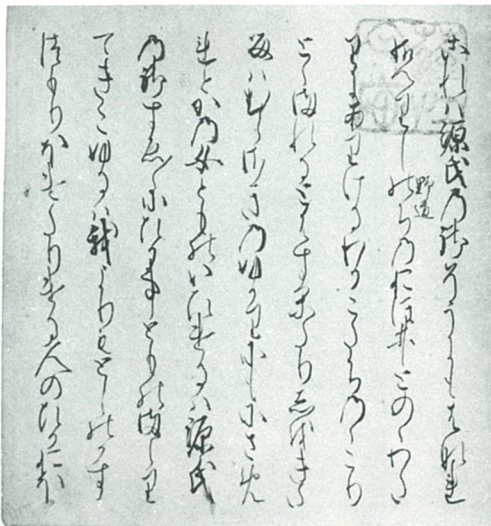
屢示風よ り

東洋の古典

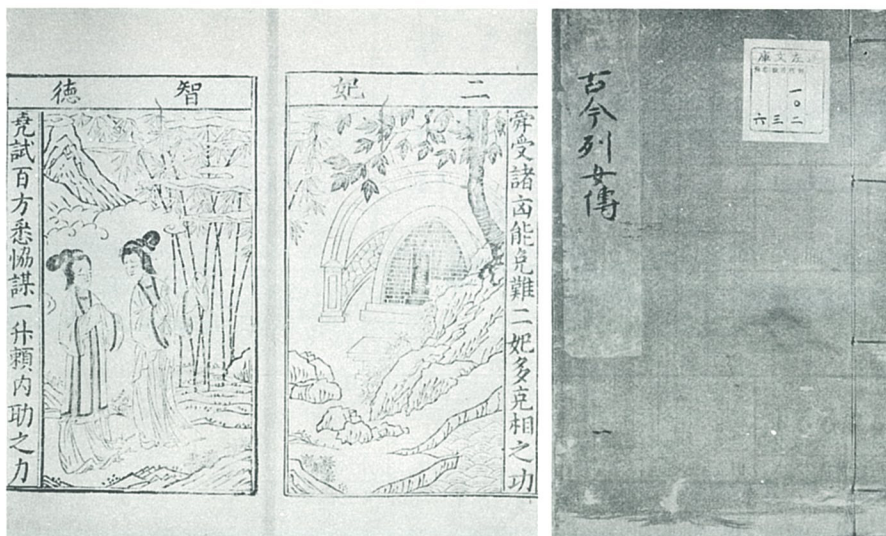
11. 6(土)~12.19(日)

「古典」とは文字通り「古い典籍」という意味であるが、「古い典籍」はすべて「古典」というとそうではなくて、長い年月にわたる批判に耐えて伝存し、多くの人々の模範となり、また愛好されてきた、言わば超時代的な著述や作品をさしている。「古典」といえば、『聖書』や『アラビアン・ナイト』あるいはホメロスやシェークスピアのものが異存なくあげられるし、中国の四書（大学・中庸・論語・孟子）五経（易経・書経・詩経・礼記・春秋）や日本の『万葉集』『源氏物語』も誇るべき世界的名著である。

東洋（ここでは中国・朝鮮・日本）は、世界各国のうちでも、古典籍の豊富さと残存遺品の多さにおいて、目をみはるものがあるが、今回はその中から、わずか一部にすぎないが、50種を選んで展示

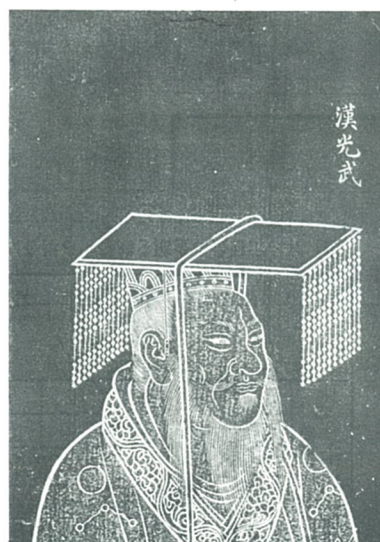
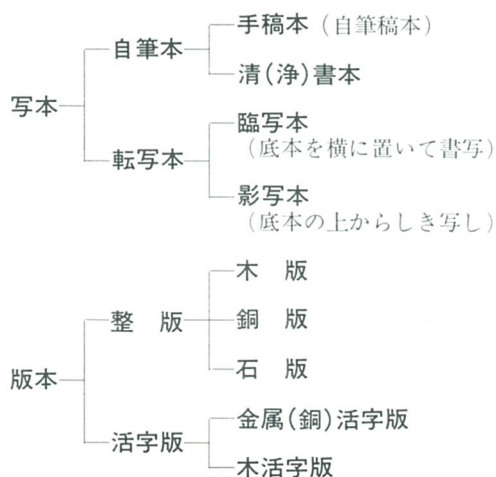


源氏物語 たけ河（鎌倉時代写 枡形本 綴葉装）



古今列女伝 明・万曆15年刊

することにした。東洋の古典に親しんでいたが、というのもねらいのひとつではあるが、「古典」といえば多くの解説書や翻刻本で紹介され、それらの内容については周知のものも少なくないので、今回は趣向を変え、「古典」への外側からのアプローチを試みた。すなわち、「古典」の伝存のされ方を実物（古書）によって理解していただけるように配慮した。具体的には、写本（手書きの本。自筆本をも含めて手書きの本はすべて写本という）と版本（印刷本）のバラエティと、その歴史の紹介ということになるが、特に東洋は早くから印刷文化の発達した地域であり（中国では約1千年前から、朝鮮では約900年前、日本では約400年前から、本格的な出版活動が行われた）、「古典」を一般に普及させ（「古典」を「古典」たらしめ）、かつ後世に伝存するのに大きな役割を果たしているのだから、この方面に若干重きを置いた。また、古書について一般的な理解をうながすため、装訂の歴史などについても解説を加え、古書に関する知識が不十分な方にも理解しやすいように心がけた。今回の展示は、本文庫としても初めての企画で、「古書入門」の一助ともなれば幸いと思う。



歴代君臣図像 朝鮮陰刻本

「東洋の古典」出品目録 付. 用語解説

I. 装訂の種類と変遷

1. **卷子本** (卷子ともいふ軸に絹や紙を巻きつけた古い形の本。唐代・奈良時代の代表的装訂)
侍中群要 橘広相 寛永元年(1624)写
金沢文庫本複製 10巻10軸
2. **折本** (帖装本ともいふ、巻き物を初めから同じ幅に折り畳み、前後に表紙をつけたもの)
大唐西域求法高僧伝 唐・釈義浄撰
日本・慶長19年(1614)刊(宗存版) 2巻2帖
3. **粘葉装** (胡蝶装とも。料紙を二つ折にして重ね合せ、折目の部分を糊付けしたもの。出陳本は折本の背を糊付けしてある。古代~中世の装訂で現存のものは少ない)
古事記 真福寺本複製 刊(昭和) 3巻3帖
4. **綴葉装** (胡蝶装の一種。何枚かの料紙を重ねて半折一括りとし、数括りを糸で内外から綴じ合せたもの。平安中期頃からの日本独自の装訂)
百人一首 藤原定家編 江戸中期写 1帖
5. **大和綴** (右端を二ヶ所結び綴にしたもの。日本独自の装訂で平安末期頃の遺品も残存)
校正古事記 植松茂岳校 明治8年刊 3巻3冊
6. **包背装** (くるみ表紙とも。半折した料紙を重ね、右端を二か所下綴し、表紙でくるんで背を糊付けしたもの。元・明代の代表的装訂)
東溪日談録 明・周琦撰 嘉靖16年(1537)序刊
16巻4冊
7. **袋綴** (線装本の日本での俗称。表裏別々に表紙をつけ右端を4・5か所糸で綴じた最も普遍的な装訂)
保元平治物語 片かな本 慶長年間写 5巻5冊
8. **線装本** (上記と同じだが、唐本は中央のと同じ目の間隔が狭い場合がある)
毛詩註疏 (十三経註疏の内)
明・汲古閣刊本 20巻
9. **同・康熙綴** (清代康熙年間の刊本に多い線装の一種。角のまくれが防げ、装飾的でもある)
牧齋初学集詩註 清・錢謙益撰
日本・明治16年刊 20巻14冊
(参考) 往生至要抄 安政6年刊 2巻2冊
10. **朝鮮綴** (線装の一種。韓本<朝鮮本>は大形が多いのでとじ目は5つ、鮮やかな綴糸が特徴的)
内訓 朝鮮・昭恵王后撰
朝鮮銅活字版 3巻4冊

II. 本の大小

11. **特大本** (大本よりもさらに大形の本)
徒然草 吉田兼好 江戸初期写 2冊
 12. **大本** (美濃本とも。美濃判二つ折り≒B₅判)
伊勢物語 宝暦6年(1756)刊 2冊
 13. **半紙本** (半紙二つ折≒A₅判)
易学啓蒙通釈 宋・胡方平撰 室町時代写 3冊
 14. **中本** (大本半載)
遊仙窟抄 元禄3年(1690)刊 4冊
 15. **小本** (半紙半載)
白縫譚 柳下亭種員等著
嘉永2~明治13年刊 70編35冊
 16. **特小本** (小本よりもさらに小形の本。袖珍本、巾箱本、豆本、芥子本、寸珍本とも)
西湖遊覧志 明・田汝成撰 明刊 12巻6冊
 17. **栞形本** (ほぼ正方形の本)
空穂物語 江戸初期写 20帖
 18. **横本** (縦に比して横が長い本)
しぐれ 江戸初期写 奈良絵本 5冊
 19. **縦長本** (横に比して縦の長さが特に長い本。
清朝の唐本<清朝仕立>や朝鮮本などに多い)
古今列女伝 漢・劉向撰
明・万曆15年(1587)刊 8巻3冊
(参考・朝鮮本) 東文選 朝鮮古活字版 64冊
- ## III. 写本(鈔本)のいろいろ(日本)
20. **平安前期**
風信状・座右銘・金剛般若経開題
釈空海書 昭和9年尚古会複製 1軸
 21. **平安中期**
古今和歌集 紀貫之等編 伝・藤原行成筆
刊(複製) 1帖
 22. **平安後期**
古謡集 承德本複製 昭和5年刊 1軸
 23. **鎌倉時代**
源氏物語(たけ河) 伝・藤原為家筆 1帖
 24. **同**
唐鏡 巻4 藤原茂範 1帖
 25. **室町時代**
連歌延徳抄 猪苗代兼載
明応5年(1496)写(自筆本) 1冊
 26. **同**
庭訓往来抄 1冊

27. 江戸前期
三河物語 大久保忠教 片かな本 3巻4冊
28. 同
日本書紀神代卷 慶長14年(1609)写 2巻2冊
29. 江戸中期
真淵雑録 賀茂真淵 自筆本 5冊
(参考) 鶴のさうし 卷下 奈良絵本 1冊
- 中国・朝鮮の写本
冊府元龜(明写) 草書千字文(明・陳元贊筆)
朝鮮人隨筆(史断抄)
- ▶江戸時代以前の写本を特に古写本という。

IV. 版本(刊本・印本)の種類と変遷

—— 日 本 ——

30. 奈良時代の印刷(現存最古の確証ある印刷物)
百万塔陀羅尼 天平宝字~神護景雲年間刊
(770年頃)
昭和5年複製 [10巻]
31. 春日版(平安末から鎌倉時代にかけて、奈良の興福寺で出版された經典の称。整版<一枚の板に文字や画をほりつけて印刷したもの>)
大般若波羅密多經 鎌倉時代刊(室町後刷) 1軸
▶ほかに高野版、叡山版などがある。
32. 五山版(鎌倉室町時代に京都・鎌倉の五山を中心に、禪僧によって出版されたもので、宋・元版の復刻または模倣したものが多い)
集千家注分類杜工部詩 永和2年(1376)刊25巻13冊
33. 室町時代の整版
藏乘法数 応永17年(1410)刊周防大内版1巻1冊
34. キリシタン版(古活字本<近世初期以前の活字本>の一種。西欧の活字印刷術がキリスト教の伝道者により将来したもの。天草を初めとし、長崎・京都などで出版された)
こんてむつすむんち 大正10年複製
(慶長15年版) 1冊
35. 嵯峨本(古活字本の一種。嵯峨において本阿弥光悦<光悦本>・角倉了以<角倉本>によって出版された活字本の総称で、優雅な平かな木活字を多く使用)
方丈記 鴨長明 慶長年間刊 1冊
36. 駿河版(徳川家康が駿府に退隠後、初めて銅活字を用いて出版させたもの。「大蔵一覽集」と「群書治要」の二種。古活字版)
大蔵一覽集 慶長20年(1615)刊 11巻11冊
(参考) 古活字版としては上記の他に、伏見版<徳川家康の木活字本七種> 秀頼版<豊臣秀頼による木活字版「帝鑑図説」> 宗存版<伊勢山田の法楽院の僧宗存の元和年間の出版物>

要法寺版<京都要法寺の出版物>等がある。

▶ヨーロッパ系と朝鮮系に別れるが、後者が主流を占めた。

37. 江戸前期整版
狭衣 承応3年(1654)刊 絵入本 16冊
38. 江戸中期整版
八代集 140巻8冊
39. 江戸後期銅版
医範提綱附図 文化5年(1808)刊重政堂版1帖
▶銅版の技術はこのころオランダから伝来した。
40. 江戸後期多色摺
春色梅児与美 為永春水 天保3年(1832)刊
4編12冊

▶浮世絵の普及にとともに、色刷本も発達した。

(参考) 江戸末期活字本…秘本玉くしげ
尾張明倫堂版…群書治要(整版)
帝範・臣軌(活字版)

—— 中 国 ——

中国での印刷の起源は明確でないが、唐代の印刷遺品から推定して隋代(581~618)以前といわれている。ここでは印刷術が長足の進歩を遂げた宋代以降の出版物の若干を展示した。

41. 宋版(宋刊本)
春秋左氏音義 金沢文庫本影印(昭和) 1巻2冊
42. 元版(元刊本)
方輿勝覧 宋・祝穆撰 70巻15冊
43. 同 翰林珠玉 元・虞集撰 1冊
44. 明版(明刊本)
集古印譜(朱印本)・秦漢印範(藍印本)6冊・5冊
45. 同
三国志伝通俗演義 元・羅本撰 明・万曆19年(1591)刊 帶図本(絵入本) 12巻6冊
(参考・明古活字版) 異物彙苑 18巻6冊
46. 清版(清刊本)
西遊真詮〔西遊記〕 帶図本 20冊
(参考) 四庫全書簡明目録 21巻12冊
- 朝 鮮 ——

朝鮮印刷文化の一大特色として、金属活字の発明があげられるが、これはグーテンベルグよりもはるかに古く、高麗末期(14世紀後半)以降、すぐれた活字本が刊行された。ここでは李朝の古活字本を中心に、朝鮮独特の出版物を紹介する。

47. 古活字本 李太白詩 26巻15冊
48. 同 十七史詳節 1516年刊 267巻60冊
(参考) 古論選 木活字本 1巻1冊
49. 古刊本(整版) 樂学軌範 1493年撰進
帶図本 9巻3冊
50. 陰刻本 歴代君臣図像 李朝初期刊 帶図本
2巻2冊

蓬左文庫の蔵書印

その11. 「尾張軍務局印」
「徳川氏蔵版」

織 茂 三 郎

尾張軍務局は、明治2年(1869)のいわゆる版籍奉還にともない、尾張藩(名古屋藩)の官制や軍制が大きく改正されたとき、新たに設けられたもので、従来の番方(ばんかた。大番・新番・馬廻りなど)に代わって、判事・権判事・参謀・録事などの軍務官が置かれた。しかし、同4年には廃藩置県が実施され、まもなく陸軍の所管となって廃止に至ったため、存在期間はきわめて短く、したがってこの印の用例も少ないが、本文庫の蔵書中では、名村元義訳述「歩兵全書」〈10巻10冊・嘉永年間写〉などにみられる。印の形状は、たて・よこ共に5.8cmの方印である。なお、軍務局は、名古屋城三の丸にあった藩の筆頭家老成瀬隼人正の屋敷が充てられ、イギリス式ないしフランス式の兵制が採用されたようである。

つぎに「徳川氏蔵版」印は、徳川家の蔵書を刊行するに当たって用いられるもので、蔵書印とはやや異なるが、いちおう、印記のひとつとして加えた。印材は蠟石、たて9.8cm、よこ9.3cm、ほぼ方形の大型印(徳川美術館現蔵)で、本文庫に関するものなかでは最も大きい。この印は、もっぱら明治以降に使用され、明治8年の「校正古事記」3巻(植松茂岳校。発行者は尾張藩14世で、明治8年に徳川家17世を再相続した慶勝)や尾張藩初代義直の編述に成る「類聚日本紀」174巻の影印本などにみられる。なお、前者の印記は原寸通りであるが、後者の場合は一まわり縮小されている。

(蓬左文庫調査研究員)



「尾張軍務局印」



「徳川氏蔵版」

蓬左文庫に新館が完成! /

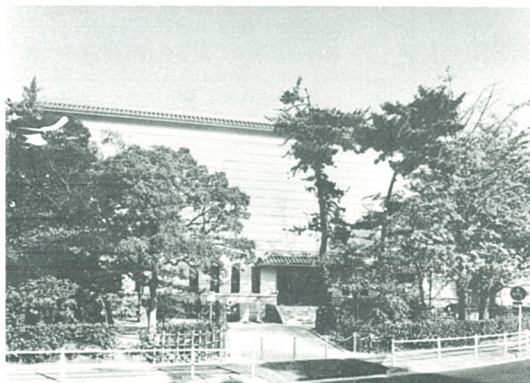
17年間にわたり、東図書館の二階に併設されておりました蓬左文庫に、この度新館(東図書館西隣、徳川園内)が完成しました。貴重図書を移転・収蔵するため、約一年間、建物を乾燥させ、昭和58年10月1日に開館の予定です。なお、今年度中は現在の施設において従来通り業務を行います。来年度(4~9月)は移転のため、しばらく休館させていただきます。ご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願いいたします。

蓬左文庫新館

鉄筋コンクリート3階建(床面積303㎡のべ898㎡)

1階……………閲覧室・事務室・会議室

2・3階……………書庫



出版物一覽

名古屋市蓬左文庫漢籍分類目録(S.50年刊)	3,500円	蓬左文庫・源氏物語図録(S.53年刊)	300円
名古屋市蓬左文庫国書分類目録(S.51年刊)	4,000円	蓬左文庫所蔵古地図複製(S.55~57年刊)	
名古屋市蓬左文庫古文書古絵図目録(S.51年刊)	2,500円	No.1~No.10	各 1,800円
尾崎久弥コレクション目録第一~三集		No.11(尾張志付図)丹羽郡	1,800円
(S.52~55年刊)	各 1,500円	名古屋叢書三編第12巻(S.56年刊)	3,000円
名古屋叢書(正編)索引・総目録(S.53年刊)	2,000円	同 第8巻(S.57年刊)	
名古屋叢書続編 索引(S.47年刊)	700円	張州年中行事鈔他二編	3,000円
名古屋叢書続編総目録(S.44年刊)	400円	同 第16巻(S.57年刊)	
善本解題図録第一~三集(S.55年再版)	各 300円	横井也有全集上	3,000円
蓬左文庫重要文化財図録(S.52年刊)	200円	同 第19巻(近刊)	
日本の古典<蓬左文庫図録>(S.52年刊)	200円	物品識名他三編	3,000円

★以上の出版物は、本文庫事務室において頒布しています。郵送希望の方は郵送料が必要ですので、お問い合わせ下さい。(ただし、古地図複製は郵送不可)

★本文庫所蔵古地図の精密な複製を作成し、希望者には頒布しています。

★「名古屋叢書三編」(20巻・付1巻子定)の第1~3回配本を頒布中です。次回配本(第19巻、物品識名他)は、11月10日頃から頒布いたします。

▷▷▷ 利用ご案内 ◁◁◁

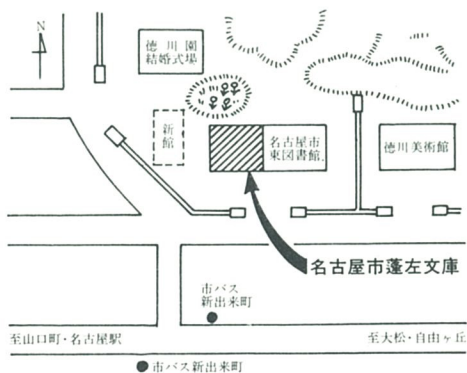
- ▷開館時間 午前9時30分~午後5時
- ▷休館日 毎月曜日・第3金曜日(館内整理日)
祝日(日曜に重なる場合は日曜開館、月・火休館)
月曜 " " 月・火休館
年末年始 12/27~1/4
- ▷閲覧 館内に限り、館外貸し出しはいたしません
(閲覧料) 普通図書 無料
重要図書 有料(1部100円)
- ▷展示 常時蔵書の一部を展示
(特別展を除き入場無料)
- ▷複写サービス 普通図書のうち、保存上影響のないものについて複写サービスを行います。その他、マイクロフィルムの利用、写真撮影の申請を受付けますので、ご来庫の上、ご相談下さい。

名古屋市蓬左文庫

〒461 名古屋市東区徳川町1001番地

☎(052)935-2173

(市バス 新出来町 北 100m)
山口町 東 500m)



「蓬左」第13号 ☆昭和57年11月6日発行 ☆編集・発行：名古屋市蓬左文庫(東区徳川町1001番地)
☆無料 ☆不定期刊行 ☆印刷：大同印刷(東区泉2-3-18)